

令和4年度 第1回いじめ対策総点検（報告）

新潟西高等学校 学校訪問指導

1 日 時 令和4年7月27日（水）10:00～12:00

2 訪問者 生徒指導課 副参事指導主事 1名

生徒指導課 指導主事 1名

3 参加者 校長、教頭、いじめ対策推進教員・生徒指導主事、各学年主任

4 内 容 （1）現状の聴き取り、協議 10:00～10:50

・ いじめ総点検チェックシートによる自校体制の確認

（いじめ対応マニュアル、校内研修、いじめ認知等の確認）

（2）グループワーク（シミュレーション） 10:50～12:00

・ いじめ事案を基にしたシミュレーション

5 指導内容 （1）現状の聴き取り、協議

- ・ いじめが疑われる事案については、中心になる教員を軸にして迅速な対応が必要である。
- ・ 認知報告書等の記録については、保護者の言葉を残しておく。
曖昧な表現ではなく客観的な部分を残しておく。
- ・ ゲートキーパー研修の需要は高まっている。研修に参加できなかった職員に対してどれだけ周知できるか。命に関わる問題に学校全体で取り組む必要がある。
- ・ いじめに関するアンケートについては、記名式、無記名式ともメリットとデメリットがあるが、生徒の声を拾うのにどういう工夫ができるか。学校の実態に応じて生徒が記入しやすい様式の工夫、声を挙げやすい環境づくりが重要である。

（2）グループワーク（シミュレーション）

- ・ いじめ事案については、校長が最終的に招集し、対策委員会で委員から意見を出してもらい、よりよい対策を検討する。
- ・ 被害生徒と加害生徒の両方から丁寧な聴き取りをした上で、作戦会議を開く。
- ・ 被害生徒の保護者からの要望については、法に則り、相手に判断を任せる。
いろいろなことを想定しながら、明確な方針を立てて対応を考える。